



## 当院における図書室業務の取り組みについて

小川 香

### I. はじめに

医療をめぐる情報は、日々刻々と変化している。その中で、安全で効果的な治療・サービスを提供するための病院図書館の役割は非常に大きいといえる。だが、図書室にかけるマンパワーやコストを削減する病院も少なくない。当院も同様に、図書室専任担当者の配置を中止し、その後現場の必要性から担当者を再配置するといった経過をたどった。そこで、ひとつの事例として、当院の図書室業務の変遷と担当者配置による効果を検討し、今後の図書室運営のあり方を考えたい。

### II. 担当者配置の変遷

当院では、1998年までは図書室に専任の担当者を配置していた。しかし、98年の人事異動で図書室から専任担当者がはずされ、担当者は医局秘書との兼任となる。2000年には、医局秘書の人員削減により一時担当者が不在となる。しかし現場の要望から、2001年には医局秘書との兼任の担当者が、2002年には時間限定で専任の担当者が配置される。現在は図書室担当が主で医局秘書業務を兼ねる担当者が1名配属されている。

### III. 図書室担当者配置による効果

担当者を配置したことにより図書室に少しずつではあるが効果が現れる。効果は3つに大別され、①病図協研修会参加による効果、②図書室業務の効率化、③対費用的効果が挙げられる。以下に個々の項目について検討を加える。

#### ①病図協研修会参加による効果

研修会に参加することにより、担当者はさ

まざまな知識を修得することが出来、業務の効率化、標準化が可能となる。また担当者としての意識を学ぶことも出来る。ひとり業務の多い図書室担当者にとって、研修会は情報の宝庫であり、自分の日常業務の振り返りの場ともなる。

#### ②実務の変化

担当者の配置により、実務に変化が現れる。現場の声をもとに例を挙げると、「文献の納品期日の短縮」「所蔵図書 of 整理」「文献検索方法の説明」などである。また、当院では以前は登録のなかった On Line Journal (19誌) や EBM ツール (MDCConsult 他) が導入されるようになった。

他部署との関係でも、図書室ニュースの発行や所蔵図書アンケートの実施などにより、少しずつ変化が現れている。

#### ③対費用的効果 (02年→03年)

閲覧調査やアンケートによって所蔵図書の見直しを行い約18万円、文献検索ツールの契約形態の変更で約50万円が削減出来た。また、文献依頼を業者利用から相互貸借利用に変更することで、約4万円の削減となった。これは文献1件あたりにかかる費用にすると、以前は1件あたり518円、03年度は303円と200円以上のコストダウンになる。

### IV. 今後の図書室運営

担当者配置による効果を見てきたが、当院はこれでやっと標準レベルの図書室になったところである。今後は医療の質を上げるためのEBM提供の専門部署としての図書室、そして患者様への医学情報提供の場としての図書室、これらふたつの方向性を常に視野に置いて、今後の図書室運営を考えていきたいと思う。